

# 続・困難ななかで、 研究所の灯をともし続ける

和 澄 利 男

あれから6年

本誌96号（2017年12月刊）に、「困難ななかで、研究所の灯をともし続ける」と題して、困難ななかでも、なんとか当研究所の活動継続するとの思いを記しました。

それから6年経過しました。研究所を巡る状況は好転せず、むしろ一層困難な状況です。

この間、一番の出来事は、研究所事務所の移転でしょう。それを置いていたビルの老朽化に伴う解体により研究所事務所を移転せざるを得なくなりました。研究所の現勢と今後のことを考え、事務局長宅に研究所事務所を置くことにしました。

新型コロナウイルス感染に伴い、狭い事務所での所員会議開催が困難になりました。しかし、ZOOM利用したり、モート会議と公共施設の広い会議室（無料）を利用した会議で、研究所の運営に支障を生じてはいません。最近5年間の研究所の主な活動を表1にまとめました。前回記したように、2017年度から研究所の活動の活性化を目指した取り組みを始めました。2019年度半ばまで、活動に明るい展望が開かれ始めたかと思つた矢先に、新型コロナウイルスが始まりました。コロナ禍、人が集まる活動の自粛が求められ、研究所もそれに応じざる得ませんでした。

表 1 2017 年度から 2021 年度の主な活動

2017年度	9/30	第34回総会・記念講演 小林昭三さん(新潟大学名誉教授) 「柏崎刈羽・世界最大出力集中原発の再稼働は世界一無謀な暴挙！」
	11/28	第1回教育カフェ
	12/25	「にいがたの教育情報」125号発行
	2/6	第2回 教育カフェ 「道徳教育と教科書」
	2/10	上越市で会員懇談会
	3/24	第3回教育カフェ 「小学校教育を考えよう」
	4/6	「にいがたの教育情報」126号発行
	5/26	研究所主催学習会 テーマ:「精神障害者が普通に暮らすには」 問題提起 早真人さん
	6/20・28	新婦人新潟市支部の子育てグループと教科書展示会に行く
	7/22	南魚沼市民会館で会員懇談会
8/3	「にいがたの教育情報」127号発行	
	所員会議は26回開催	
2018年度	9/29	第35回総会・記念講演 吉澤文寿さん(新潟国際情報大学)「朝鮮半島情勢と日韓・日朝関係の今後」
	12/20	「にいがたの教育情報」128号発行
	1/18	新発田市で会員懇談会&教育カフェ
	4/20	「にいがたの教育情報」129号発行
	6/10	所員学習会 講師 栗田茂男さん 主題:「県内市町村が自衛隊に『適格者情報』を提供」
	6/26	新日本婦人の会新潟支部子育てグループと合同で教科書展示会参加
	9/4	「にいがたの教育情報」130号発行
		所員会議は27回開催
2019年度	9/28	第36回にいがた県民教育研究所定例総会 記念講演 伊藤亮司さん(新潟大学)「世界の農業の動向とこれからの新潟の農業」
	12/18	「前川喜平講演会」第1回実行委員会
	12/23	「前川喜平講演会」第2回実行委員会
	2/5	「前川喜平講演会」第3回実行委員会
	2/11	「前川喜平講演会」
	2/26	「にいがたの教育情報」131号発行
	6/17	新婦人新潟市支部の子育てグループと教科書展示会に行く
	7/22	「にいがたの教育情報」132号発行
	8/5	南魚沼市民会館で会員懇談会
	所員会議は23回開催	
2020年度	9/26	第37回総会(所員会議を総会とする)
	11/18	所員学習会 講師 小林理事長「学術会議会員任命拒否で歴史を汚す菅首相」
	12/23	「にいがたの教育情報」133号発行
	6/15	新婦人新潟市支部の子育てグループと教科書展示会に行く
	6/30	「にいがたの教育情報」134号発行
	所員会議は25回開催	
2021年度	9/25	第38回総会(Zoomと併用)
	12/22	「にいがたの教育情報」135号発行
	5/15	研究所主催学習会(Zoomと併用) テーマ:世界一危険な原発再稼働と佐渡金山の歴史改ざんとの両虚妄をあげく 問題提起 小林昭三理事長
	6/21	新婦人新潟市支部の子育てグループと教科書展示会に行く
	6/29	「にいがたの教育情報」136号発行
	所員会議は28回開催	

表2 特集一覧

号	特集テーマ
125	道徳が「特別の教科道徳」になる
126	いま憲法を考える 憲法9条を守り次世代に伝えるため
127	子どもの子育て環境を考える
128	現代の子育て考
129	子どもの教育と教員の働き方
130	「にいがたの教育情報」は何を発信してきたか
131	県の教育行財政を「新潟県教育振興基本計画」から考える
132	学校教育が変えられる
133	コロナ禍の学校と子ども
134	学校を支える多くの人たち
135	いま問われる人権感覚・歴史認識
135	開戦80年に、あらためて戦争を考える
136	どう考える「高校教育改革」

「前川喜平講演会」の取り組み

研究所の運動方針に「他団体や地域と広く共同して、県民的課題や要求に応えられるように努めます」とある。その実践例とし、「前川喜平講演会」の取り組みを紹介します。

2019年11月初めの所員会議で、「身の丈発言で象徴されるように、教育の機会均等を否定し、教育の

格差を容認するような風潮が広がっている」「働き方改革の名のもとで、教員の過労死を増長させる教員の労働裁量性の導入が図られそうだ」「学力向上の名で、各地で過度の競争と学力テスト対策が行われている。小学校での英語学習、さらにアクティブラーニングやプログラミング学習を取り入れた授業で教師や子どもへの負担増が懸念される」等、教育の現状を憂える声が出されました。

さらに、こうした教育問題を研究所の会員や教員だけでなく、多くの市民にも伝え、教育問題に関心を持ってもらうようなことができないか検討し、教育講演会を2月か3月に開催することとしました。

講演会の講師をどなたに依頼する検討した結果、知名度がある前川喜平さんの名前が挙がりました。前川さんに連絡すると2月11日（火）が空いているというので、即講演依頼し了解を頂きました。

知名度のある前川さんのお話しを多くの方に聞いてもらいたいと、研究所だけでなく教職員組合や民主的な団体の後援を得て実行委員会を組織し、講演会を開催したいと考え、取り組みました。

結果、i女性会議、CAP新潟、教育をよくする新

潟県民会議、新日本婦人の会、にいがた私学教育を守る父母の会、新潟大学職員組合、ゆきとどいた教育をすすめる新潟県民の会と、いろいろな立場の団体から後援を得ることができました。直接名称は出ていませんが、新潟県教職員組合、新潟県高等学校教職員組合、新潟県私立学校教職員組合連合、新潟公立高等学校教職員組合と新潟県の主要な教職員組合が後援団体に含まれていることは、特筆すべきことでした。

当日は、前川さんの知名度もあり、会場に入りきらず帰宅するほどの大盛況でした。

寄せられた感想を紹介します。

「教員をしています、日々の忙しさの中で政治と教育との関係に目を向けることを忘れてしまいました。前川さんにその危険性を教えてもらいました。何をめざして子どもと向き合っていくか日々学びながら歩んでいきたいと思えます」

「多岐にわたる話。歯切れのよい語り口、大変おもしろかった。政権と官僚のせめぎ合いの真相を聞きたかった。歴史修正主義的な教科書がまん延することを非常に恐れている。そんな教科書を採択させない市民運動が必要だ」

研究所が中心となり、他団体と共に教育問題等を考える運動を進めていく出発の取り組みとなるはずでした。

しかし、「前川喜平講演会」終了後間もなく、新型コロナウイルスが猛威を振ります。2月27日(木)、安倍元首相は全国の小中高に3月2日(月)からの臨時休校の要請を発しました。

その後、人が集まる活動の自粛が求められ、研究所もそれに対応せざるを得ませんでした。せっかくのチャンスも、その後の活動に生かすことを逃してしまいました。

#### 40周年以降に向けて

来年2024年は、研究所創立40周年の年になります。今、研究所を支える会員は150名程となっております。今までと同じような活動を続けることは困難です。それではどうするか。

今、40周年以降の研究所のあり方を検討しています。

(わずみ としお 事務局長)